

6-dim+

ロクディム

この瞬間を一緒に笑おう。

学校公演・芸術鑑賞 演劇プログラム

ロクディムの公演は「他者とよりよい形で関わっていくこと」や「失敗を恐れずに自分を表現すること」「自分自身の選択で現実をクリエイトしていくこと」を「テーマ」としています。他者との関わりや自己表現という「コミュニケーション」について、変化のスピードが年々早くなる未来を生きる子どもたちへの「生きるヒント」として共に笑い合い楽しみ合える「即興芝居」を体感してもらいます。特別なセット・装置がいらす手軽に公演ができ、また、生徒たちに「台詞」を書いてもらったり舞台にあがってもらったりすることで、鑑賞の枠を超えた「参加型・体験型」の公演をおこないます。

<https://6dim.com>



© PHOTO : JUNICHI TAKAHASHI
<https://junichitakahashi.com>

即興芝居 × 即興コメディ
即興パフォーマンス集団

6-dim+

ロクディム

この瞬間を一緒に笑おう。

「この瞬間を一緒に笑おう。」を合言葉に、観客と一緒に「今、ここ」を「つくり」「たのしみ」「共感・体験・大笑い」する即興芝居 × 即興コメディパフォーマンスを日本全国で活動している。

【メンバー写真左から | 小田篤史・渡猛・穴戸勇介・りょーちん・カタヨセヒロシ・名古屋淳】

(6人は即興芝居を通じて1998年に出会い、2008年にロクディムを結成)

劇場のみならずカフェ、神社、学校など「いつもの場所をあっという間に『笑い溢れるコメディ空間』へ」変えながら日本各地を巡っている。これまで28都道府県で活動。2014年末にNHK「スマイルキャラバン」に出演し、気仙沼(宮城)と陸前高田(岩手)でおこなった公演とワークショップの様子がNHK総合「明日へ1min.」「被災地に即興で笑いを」「明日へー支えあおう～証言記録 岩手大船渡市」にて放送された。

また、即興芝居・即興コメディを生かして、「コミュニケーション力」「発想力」「チームビルディング」を必要とする企業や教育機関から講師として呼ばれワークショップ活動もおこなっている。

<https://6dim.com>

参考例：体育館での公演

1：「オープニングとデモンストレーション」

公演のオープニングでは、ロクディムの自己紹介と即興芝居についての説明をおこないます。

デモンストレーションでは、先生とロクディムメンバーと一緒に即興芝居を実演。

先生に舞台上にあがってもらい、即興で演じていく上で大切なことを実際に実演しながら「他者より良い形で関わっていくこと」や「失敗を恐れずに表現すること」などを生徒の皆さんに目撃してもらい、公演の見方・楽しみ方を伝えます。



舞台：ロクディムメンバーが揃った写真



舞台：舞台上がってもらった先生(赤丸)



客席：観劇する生徒・先生

2：「即興芝居の公演」

オープニング～デモンストレーションの後は、ロクディムメンバーによる即興芝居の実演。

生徒たちに書いてもらった「台詞」を使ったり、舞台を超えて生徒に直接話しかけてエピソードを聞いたり、舞台上がってもらって一緒に即興で演じたりと、鑑賞の枠を超えた「参加型・体験型」の公演をおこないます。



舞台にまかれた台詞の書かれた紙



客席で演じるロクディム(赤丸)



「やってみたい!」と舞台上がった生徒(赤丸)

ステージに撒かれた紙には、事前に生徒に書いてもらった「台詞」が書かれています。即興で芝居をする途中、無作為に紙を拾い、書いてある台詞を「自分の台詞」として読み上げ演じます。どんな言葉が出るか分からない上、自分の書いた台詞が物語に登場するかもしれない期待感が会場を盛り上げます。

ロクディムの公演では舞台上だけではなく、舞台を降りて生徒の中に混じったり、体育館の2階部分に上がったりと、様々なところでおこなわれます。このことで体育館全体が舞台になり一体感がうまれます。

生徒や先生にも即興芝居に参加してもらうことで予想できない展開が生まれ、それをロクディムが物語として紡いでいきます。普通の芝居にはないインタラクティブ性が会場を盛り上げ、自己表現の楽しさや嬉しさなどを感じる公演になります。

3：「エンディング」

ロクディムの公演は、ここにいるみんなで作り上げたもの。今という「貴重」な時間と経験、未来を作る力、自己表現、他者との関わりで笑いが生まれ、楽しい公演ができたこと。「即興芝居の体験を通じて、生徒のみんながよりよい未来をつくるための『ヒント』を見つけていってほしい」など、ロクディムからメッセージを伝えて公演が終了となります。

主な準備物：学校施設内で行う場合（体育館や講堂、教室等）

学校にある機材を利用して実施が可能です

—体育館での実施例—

(1) 音響について

体育館の音響機材を使用させていただきます。

- ・マイク（ワイヤレスマイク 2 本、コード付きマイク 3 本等）*
- ・アンプやスピーカー（CD やパソコンを接続して「オープニング曲」等を流せるもの）
- ・ピアノ（ケースバイケースで使用）

* マイク本数は目安となります。会場の広さや生徒数等によってピンマイクが必要になる場合があります。

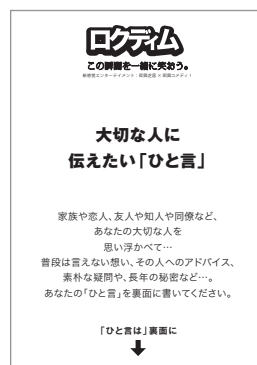
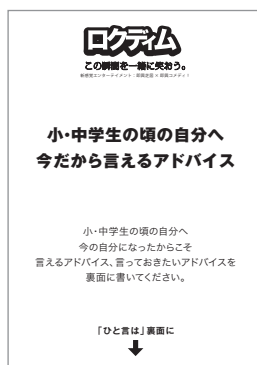
(2) 照明について

体育館の照明を使用させていただきます。

(3) その他について

- ・舞台小道具として：椅子 4 脚程度、机 1 台～ 2 台
- ・生徒の言葉*（右図参照）

* 事前に「質問・お題」の書かれた用紙データ (PDF) をお送りしますので生徒の皆さんに書いていただくようお願いします。書かれたものは公演前にロクデムへ渡せるよう事前回収をお願いします。



鑑賞人数について

観客の人数によってケースバイケースで対応ができます

(1) 30 名程度のクラス単位から、700 名程度の全校生徒を対象とした実施実績があります。（会場：教室や体育館）

(2) 1,000 人超の場合は、体育館でなくホールを利用した公演も実施実績があります。*

* ホール公演の場合、会場の手配、公演に関わる人員・機材の手配等は学校にさせていただきます。

* 観客数 1,000 人規模の場合はピンマイク等の音響設備の準備や、ホールでの実施をお勧めします。

実施時間について

授業時間に合わせた時間はもちろん、ご要望に応じた実施も可能です

授業時間に合わせて公演時間を設定することができます。

また、ご要望に応じてケースバイケースの公演時間で対応が可能です。

以下を参考にご希望をお伝えください。

(1) 公演時間：60分・90分・120分の実績があります。（対象：全校生徒）

(2) 公演時間：45分の実績があります。（対象：クラス単位・学年単位）

(3) その他

ご要望に合わせて「即興芝居を体験・体感するワークショップ」を組み合わせることも可能です

ロクディムが行うワークショップや公演とは？

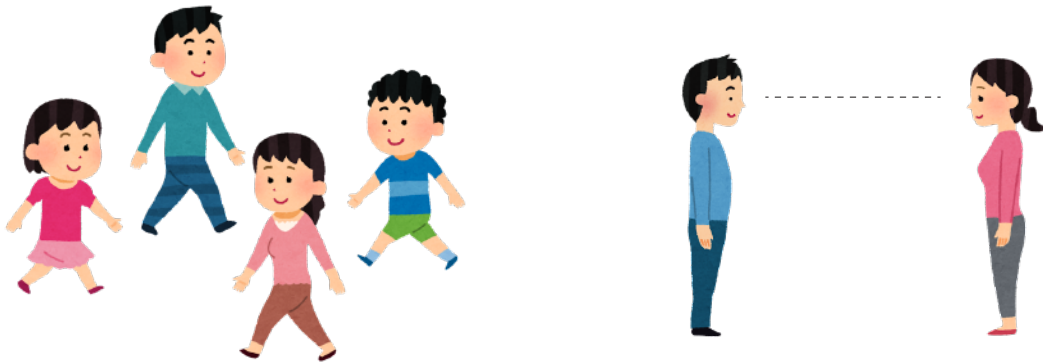
ロクディムのワークショップは、コミュニケーションを中心とした協働・共創を促進するためにプログラムされており、楽しみながらコミュニケーションについて改めて考える機会を体験的に提供します。ロクディムの学校公演は、一般的な演劇だと「見るだけ」になってしまうところを、生徒たちが「自然と参加してしまう」体験型の上演形式となっており、多くの笑顔や感動を届けています。

- ・学校などの教育機関に演劇的ワークショップや学校公演を提供している。(これまで100件以上)
- ・演劇的ワークショップは、自己表現・自己肯定感、他者受容やより良い関わりなどを促進するよう設計されている。
- ・ロクディムの学校公演は、「参加型・体験型」の上演形式になっており、観客（生徒たち）が「楽しみながらコミュニケーションについて改めて考える」機会を提供している。

ワークショップのプログラム例

導入～アイスブレイク

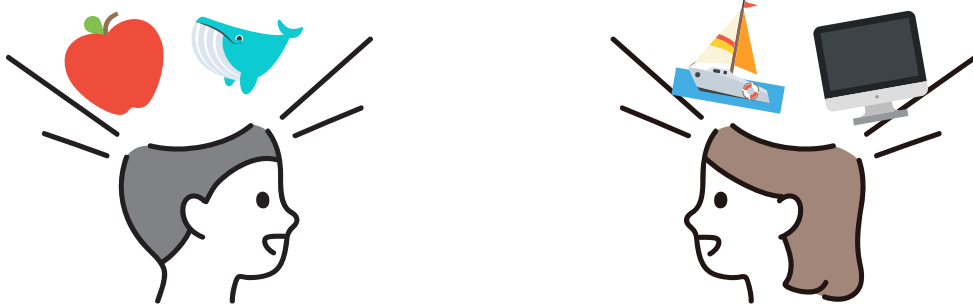
会場の中を歩いたり、アイコンタクトをとったりして、参加者同士の交流をゆるやかに促します



からだを動かすことで緊張感をほぐしたり、アイコンタクトをとることで参加者同士が安心できる空気作りをします。言葉を使うコミュニケーションの前に、身体的なコミュニケーション（目を合わす、同じ動作をする等）に意識を向けていきます。

イメージする

2人～3人組で連想ゲームや発想ゲームをして、想像&創造をしていきます



イメージを使う簡単なゲーム（連想ゲームや発想ゲーム等）をして、お互いの「イメージ」が違うことを楽しみながら体験します。例えば「かばん」から連想されるイメージは一人一人違うはずで、それは一人一人が違う存在であり、それぞれの人生・世界を生きてきた証拠。自分と他者が違うことを実感。

ワークショップのプログラム例

即興芝居をやってみる「プレゼントゲーム」

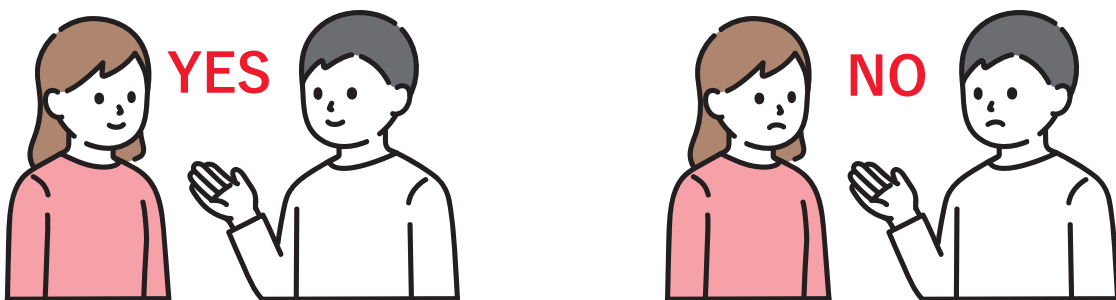
2人組になって、どちらかの誕生日という設定で、プレゼントを渡すシーンをやってみる



自分の意見・提案を相手に「伝える=オファーする」こと、相手の意見・提案を自分が「受けとる=アクセプトする」ことが基本となる即興芝居を、2人組になって「誕生日プレゼント」をもらったりあげたりしてやってみます。実物のプレゼントがないのに盛り上がる。キャッチボールするような「やりとり」を体感。

即興芝居をやってみる「否定するやりとり」「肯定するやりとり」

2人組になって、「否定するやりとり」「肯定するやりとり」という設定でやってみる



2人組のうち、1人が「物語を進める役」もう1人が「全てを否定する役」として即興芝居をします。その後、「否定する役」を「肯定する役」に変えて芝居をすると、物語はどうなるでしょうか？「否定」や「肯定」の違いを体験し、どういった違いがあるか、自分はどうしたいか、などを話し合います。

ワークショップのプログラム例

即興芝居をやってみる「社長ゲーム」

4～5人組になって、「社長役」を決めて、従業員が次々に問題を持ってくるシーンをやってみる



社長に対して従業員が様々な問題を持ってきますが、社長は何を言われてまず最初に「それはちょうどいいね!」とセリフを言います。自信満々に。そうすると、次に繋がる（浮かぶ）アイデアがちょっと変わってきませんか? 「自分なんで…」 「できないよ…」 と言いがちな人、自分のパターンを変えてみよう!

最後に…

「即興芝居」と「人生」の共通点

脚本がない即興芝居は「先の展開が決まっていない」ということです。

上手くできるか分からない、失敗するかもしれない、かっこ悪く見られるかもしれない…

もしかしたら、ちょっと怖いことかもしれません。

でも、自分の人生も「先の展開は決まっていない」ですよね? そうです! 人生も即興芝居も

似てるんです。だから、お芝居という「つくりもの」の中でちょっとチャレンジしませんか?

自分をもっと表現できるような、相手とより仲良くなるような、自分の望む未来をつくる「ヒント」

のようなものを、きっと体験できるはずです。

ロクディムは「即興芝居」をベースにした各種プログラムを通じて、自分を表現すること、相手とよりよく関わること、自分の望む未来をクリエイティブしていくこと、などの「気づき」を促す「機会作り」を行っています。変化の大きいこれからの時代を生きる全ての方へ、楽しみながら少しでもヒントになるように…。

学校公演やワークショップについての「お問い合わせ・お申し込み」について

以下の内容をメールにてお送りください

- 1：学校名
- 2：学校住所
- 3：担当の先生のお名前／連絡先
- 4：実施学年／生徒数
- 5：実施時間
- 6：実施会場
- 7：ご希望の日程
- 8：ご予算
- 9：その他

ロクディムのメールアドレス

info@6dim.com

ロクディムのweb サイト

<https://6dim.com>

MEMO

[資料請求も！] お気軽にお問い合わせください

この資料の他にも

- これまでの実施事例のまとめ
- 実際に学校公演を見た生徒の感想
- 実際にワークショップを体験した生徒の感想
- 学校公演を依頼した先生の声
- 学校など教育現場のコミュニケーション教育・芸術表現として
ロクディムの学校公演やワークショップ（インプロ）が取り入れられた理由

の資料があります。ご興味ある場合は、上記メールアドレス宛に「資料請求」としてお気軽にお問い合わせください。

